

# 平成16年度病害虫発生予察予報第10号

平成17年1月18日  
長崎県病害虫防除所長

【気象（平成17年1月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並でしょう。  
週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率

単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	現況	予想
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	やや多 並 少 やや少	やや多 並 少 やや少
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 並多 並 並 やや少 やや少	並 並多 並 並 やや少 やや少
タマネギ	白色疫病 ネギアザミウマ	やや少 やや少	やや少 やや少
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類（注意報第10号）	やや少 やや少 少 多	やや少 やや少 少 多

【トマト】 ( )内は平年値

1. コナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミ、ワシツコナジラミ) と黄化葉巻病

1) 予報内容

発生程度	コナジラミ類	やや少
	黄化葉巻病	やや多

2) 予報の根拠

コナジラミ類

(1) 1月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.2% (0.9%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

黄化葉巻病

(1) 1月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.3%、発生圃場数は12筆中1筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) シルバーリーフコナジラミは黄化葉巻病を媒介するので密度低下に努める。
- (2) ハウス内の防除を徹底し、コナジラミの密度を限りなくゼロにする。また、発病株の抜き取り、適正処分を徹底する。
- (3) 訪花昆虫 (ハチ) を利用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、影響の少ない薬剤を使用する。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0% (0.0%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

3. 葉かび病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発生は認めなかった (発病株率1.6%)。

【きゅうり】

1. ベと病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は5.0% (5.5%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。

2. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は4.8% (3.0%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。

3. 褐斑病

1) 予報内容

発生程度 多

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は3.2% (0.8%)、発生圃場数は12筆中6筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 高温多湿で発生が多くなるので、ハウスの喚起を十分に行い、湿度を下げる。

- (2) 被害葉、老化葉は発生源となるので、ハウス外に持ち出して処分する。
- (3) 早期防除に努め、葉、茎、果実へのかけむらがないように十分量散布する。
- (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(薬剤は県防除基準参照)。

#### 4. 菌核病

- 1) 予報内容  
発生程度 並
- 2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0%(0.3%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

#### 5. 灰色かび病

- 1) 予報内容  
発生程度 並
- 2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

- 1) 予報内容  
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
(1) 1月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(0.9%)。

#### 7. コナジラミ類(シバノリコナジラミ、オシッコナジラミ)

- 1) 予報内容  
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
(1) 1月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(0.5%)。

### 【タマネギ】

#### 1. 白色疫病

- 1) 予報内容  
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発病株率 0.1%)。

#### 2. ネギアザミウマ

- 1) 予報内容  
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は2.9%(12.4%)、発生圃場数は15筆中4筆であった。

### 【いちご】

#### 1. うどんこ病

- 1) 予報内容  
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠  
1月上旬の巡回調査の結果、発病株率(葉、葉柄)は0.2%(0.6%)、発病果の発生は認めなかった(発病果率 0.1%)。発生圃場数は27筆中4筆であった。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.0% (0.1%)、発生圃場数は27筆中1筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

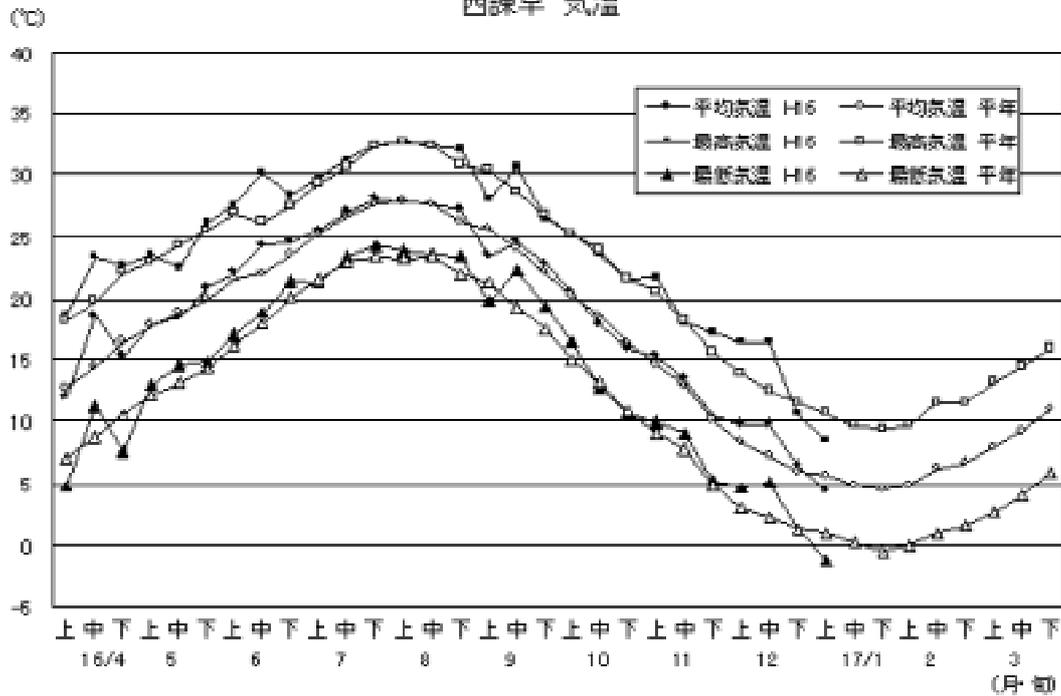
1月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.1% (2.9%)、発生圃場数は27筆中2筆であった。

4. ハダニ類

平成17年1月18日付け 病害虫発生予察 注意報第10号による。

平成16年度の気象経過 (総合農林試験場)

西諫早 気温



西諫早 降水量と日照時間

